

SHIRAKOBATO

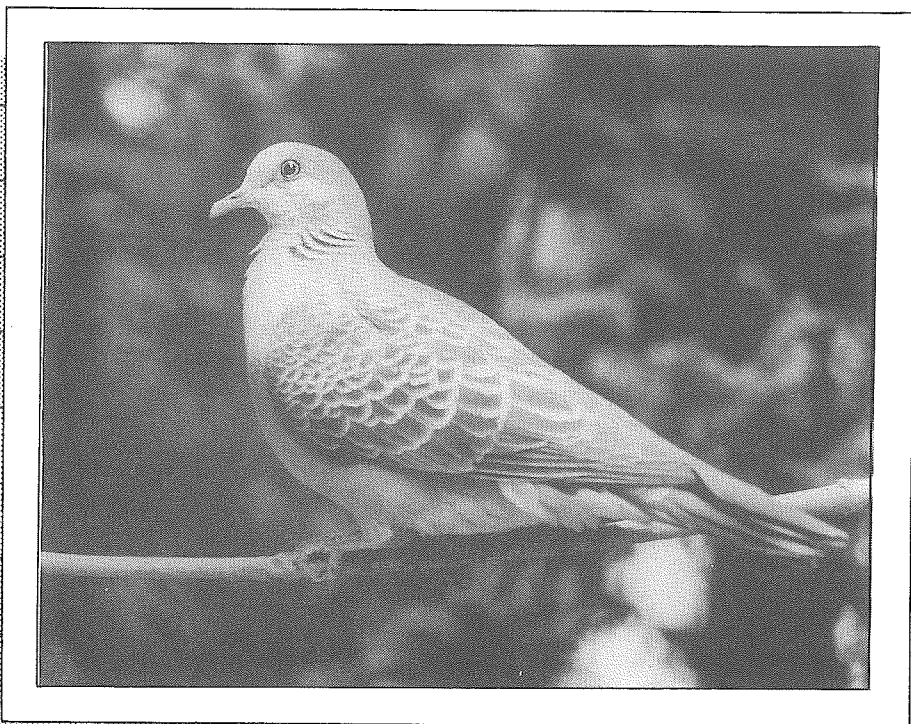
# しらこぼと



1988. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO.52

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 大 麻 生

## (1)大麻生とは

大麻生とは、荒川が秩父山地から関東平野に流れだすその扇状地の下縁に形成されている広大な河原であり、草原、森林、干潟があります。また土手の上から遠くを見通すとさらに大きな森林が河岸段丘上に広がっていることがわかります。

大麻生探鳥会はそのすばらしい環境の中で行われています。ここでは、普段の探鳥会＋α、探鳥会のコース以外を歩いたら何が見えるかを紹介します。

## (2)秋はエゾビタキ

秋はエゾビタキ、ノビタキなどに代表される旅鳥の多くが通過して行きます。モデルコースは「野鳥の森」から大麻生河原付近をお勧めします。

秩父鉄道の大麻生駅から荒川の土手に上がります。しかし、まだ河原は見えません。ゴルフ場の中に松林が見えます。ゴルフ場の中には入れないので、土手の上から旅立ち直前のカッコウがいなか探しましょう。そして土手の上を東に歩いていきます。ゴルフ場が切れたところに「野鳥の森」があります。畑があり牛肥え？豚？がありますが、我慢して鳥を探しましょう。そこに集まる虫を狙ってセキレイ、ヒタキの仲間が集まります。常緑樹が多くて見にくいですが我慢しましょう。きっとカケスの声が聞こえます。

さらに、南に歩いて行きましょう。やっ

河原に出ます。もうカワラヒワが群れています。緑と黄色の羽ばたきが、特に朝日の中にこの羽ばたきを見ると秋を感じます。そしてよく探せば、きっとノビタキも見ることができるでしょう。

## (3)晩秋はカモ・タカ

秋も深まったころ、「野鳥の森」の南の荒川に来てください。100羽前後のカモ達が越冬の準備を進めています。時折オオタカが現れカモや小鳥たちはパニックにおちいります。

もう1ヶ所、カモは明戸堰の上流にもいます。個人で出かける場合、明戸駅の利用をお勧めします。電車をおりて3分も歩けば明戸堰の土手の上から荒川が見渡せます。さらに明戸河原を歩いて行きます。日本に着いたばかりのツグミやジョウビタキが草原の中から時折顔をのぞかせます。水辺にでると広い干潟がひろがっていて10月頃までならシギ・チも楽しめます。

ここにも数100羽のカモが集まります。去年はここにミサゴがいたためか、全くカモが寄りつきませんでした。

残念なことには冬になると鉄砲が入ります。カモはまったくいなくなります。私達人間も危険ですから近付かないようにしましょう。

## (4)冬はコハクチョウ

明戸堰に鉄砲が入る頃、大麻生にはコハクチョウがやってきます。ただし、このコハクチョウはきまぐれで、毎日やすむ場所をかえます。詳しくは『しらこぼと』1988年5月号を読んで下さい。

この季節は、もう一度大麻生駅を出発点にしてみましょう。土手に上がり西へ歩いて行きましょう。ゴルフ場の端の雑木林で足を止めましょう。シジュウカラ、メジロ、アオジ、シメ等なんでもいます。樹液が出ている木



# 大麻生バードマップ



を見つければ、ウグイスの姿を楽しめます。

ゴルフ場の西端に小さな森があります。ここは鳥溜りになってるようです。マヒワやイカルを期待して下さい。春先には、軽井沢の宿り木だけでなく、ここの蔓草にもヒレンジャクがやってきます。

ここから、南に折れると川辺にです。テトラポットの上を見ると、ジョウビタキとカワセミが同時に見られることもあります。ユリカモメが飛んできました。明戸堰まで歩けばコハクチョウがいます。もし運が悪くコハクチョウは別の場所（植松橋、熊谷大橋付近）にいるとすれば、日頃の信心が足りないのです。

また遠くを見れば、ノスリやチョウゲンボウも確認できます。

## (5)春はイタチ

春になれば、鉄砲が入らなくなり、明戸河原に降りて行けます。

コハクチョウが北へ旅立てば、すぐにコアジサシが現れ、コサギは夏羽を見せてくれます。双眼鏡で草原を見回せば、イタチがネズミをくわえてはしています。ノスリもネズミをつかんで飛び立ちました。

ゴールデン・ウィーク頃のここの水辺はシギ・チも楽しめます。ムナグロやダイゼンの腹黒をみて、キアシシギ、イソシギ、クサシギ、タカブシギの識別、イカルチドリ、コチ

ドリ、シロチドリの識別に悩んでください。

明戸河原から再び明戸堰の土手にもどります。まだ歩く元気があればそのまま大麻生駅まで歩いて行きましょう。季節がよければ満開のサクラが楽しみ、その下をキジが歩いています。

## (6)夏はカワセミ

夏は魚釣りの季節です。明戸堰の周辺は人間の釣り人が大勢います。鳥もカイツブリ、ササゴイなど魚釣りの得意な仲間が自慢の腕を披露してくれます。

また、夏はダイビングの季節です。カワセミ、コアジサシが涼しげにダイビングを繰り返します。

## (7)注意してください

ここは、荒川に残された数少ない自然河原です。他の自然公園の様に、人が歩くために整備されていません。トイレは各駅にしかありません。また、足をくじいたり、ハチに刺されたり何があっても大丈夫な様に、グループで出かけることを勧めます。

ごみや産業廃棄物が不法に捨てられている場所があります。荒川も水量は少ないですが県南や東京の水道水になる水です。汚さない様にバード・ウォッチングをしましょう。

(諏訪隆久)

# 1988年春のシギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

去る4月29日、春のシギ・チドリ類県内一斉調査が行なわれた。当日は日本列島がすっぱり低気圧に覆われ、埼玉も全県的に雨というあいにくの天候ではあったが、15名の会員の御協力を得て県内4か所で調査が実施された。概況は別表のとおりである。

今回の調査では、昨年春の調査で記録されたウズラシギ・アオアシシギ・キアシシギは確認されなかったが、種数・個体数ともに例年並。

阪東大橋では、当日はツバメチドリは記録されなかったが、今年も繁殖していることが後日確認されている（北川、林、町田、未発表）。

熊谷地区については従来の大麻生を中止し、明戸堰上流について調査を行なった。

秋ヶ瀬ではアカエリヒレアシシギがカウントされたが、これは調査の前後数日にわたり、本州東方海上の高気圧から吹きだしていた海風によってもたらされたものだろう。調査中に目撃されたシロハラトウゾクカモメ（県内における公式記録なし）も同様であろう。

最後に、雨天にもかかわらず調査に参加してくださった会員の皆様に心より御礼申し上げます。次回の調査は9月15日です。

(執筆 榎本秀和)

別表

	利根川 阪東大橋 (本庄市)	荒川 明戸 (川本町)	荒川 秋ヶ瀬 (浦和市)	深作沼 (大宮市)
コチドリ	20	1	1	21
イカルチドリ	—	7	—	—
シロチドリ	1	—	—	—
チドリムナグロ	—	—	444	31
キョウジョシギ	—	—	7	—
ハマシギ	—	40	—	20
クサシギ	1	1	—	1
タカブシギ	—	—	52	—
イソシギ	5	6	—	2
チュウシギ	—	—	6	—
チャクシギ	1	2	30	36
ジンギsp.	—	—	1	—
アカエリヒレアシシギ	—	—	1	—
13種	5種	6種	8種	6種

## 野鳥の譜

句集『木象』より

諸徳寺六十五（大宮市）

あまさぎの 翔つや新樹の 色を着て

むなぐろの 胸黒千鳥の 冬羽も居て 田植時

あかしやうびん 赤翡翠 梅雨入りの霧に まぎれなし

よしきり 葭切の 楊に騒ぐ 梅雨出水

上昇の 声の雪加や 梅雨ぐもり

ほうあか 頬赤に 朝の黄菅 野波を打つ

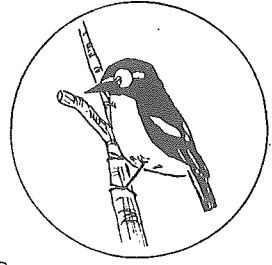
波乗を 眺めて波の 鳴かな

四十雀 雷雨最中を 雛呼べる

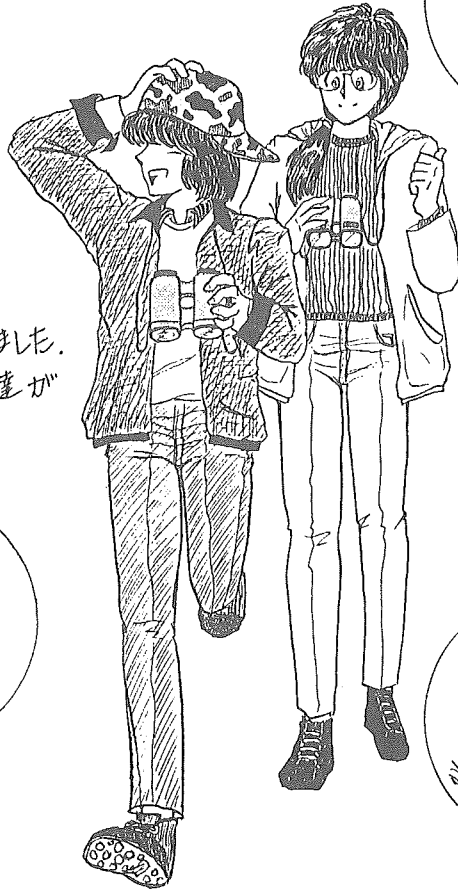
佛法僧 校舎に巣組む 夏休

瀬のひかり 羽裏に受けて 小鱒刺

灯一つの 小瀬林道に 鶴の声



今年もオモ戸隠に行ってきました。  
キビタキやコルリ、ミソサザが  
おもしろく出迎えてくれました。



昨年も一緒に  
千蔵根支那のS.E.W.



(黒田佳子)

## 暑中お見舞い 申し上げます

この辺のカッコウは、毎年5月の終わりから6月の初めに來るようです。姿が見つけれず、確認はできませんが、でも今日の朝(7月18日、9時ごろ)、子供を幼稚園へ送っていた帰りに、カッコウの声を聞いたのですが、どういふことなのでしょうね。

カゴハラ駅のツバメは、また卵を産んだようです。主人を送るので、見て帰るのを子供(2歳、4歳)と楽しんでます。

大麻生の探鳥会に行きたいと思っています。  
(田中 典子 深谷市)

7月の終わりに岡山へ帰ってきました。自転車のうしろに小学校6年の姪を乗けて、鳥を見に行きました。一日中走り回って、田圃でケリを見た時のうれしかったこと!! でも、姪っ子の手足は、まっか。僕も腕時計のあとがくっきり。岡山は暑かったのです。

(杉本 秀樹 杉並区)

7月26日、地元深作の芝浦正大テニスコート脇でバンの成鳥2羽とひな4羽に出くわしました。ひなはスクスク育っています。水が汚れているのに、こんな所にまでと、うれしいうような、情けないような気持ちです。

(金子 真理 大宮市)

# 野鳥情報

- コガモ ◇7月18日午後4時、浦和市の芝川の念仏橋上流で♂1羽（小谷野勝栄）。
- オカヨシガモ ◇7月31日午後4時、浦和市三室の芝川で♂1羽。カルガモの群れといっしょにいた（小谷野勝栄）。
- ミコアイサ ◇5月29日、狭山湖で♂1羽（佐藤方博）。
- チョウゲンボウ ◇7月26日、浦和市鹿手袋で1羽（海老原美夫）。
- ヒクイナ ◇7月2日、浦和市大門坂下で1羽（海老原美夫）。
- ホトトギス ◇6月5日、所沢市北秋津で夜間、鳴きながら飛ぶ（佐藤俊之）。
- アオバズク ◇浦和市上木崎の木崎中正門前神社で1羽（石川和義）。
- コゲラ ◇7月3日、与野市下落合の自宅庭に初めて来る（石井 智）。
- イツバメ ◇7月9日、行田駅東口の階段裏に集団営巣していた。巣の数103個（海



「死んだふりっ！」  
(押川歳子)

- 原美夫)。
- コマドリ ◇7月3日、入間市の狭山丘陵で1羽（佐藤俊之）。
- メボソムシクイ ◇6月10日、所沢市北秋津で「ジュリジュリ」とさえずる（佐藤俊之）。
- コメボソムシクイ ◇6月5日、所沢市久米鳩峯で「ジジロジジロ」とさえずる（佐藤俊之）。
- ヒゲガラ? ◇8月1日、午前7時30分、川口市荒川町のアシ原で約10mの距離から1羽観察。  
アシ原から柳の木のほうに飛んでまたアシ原に戻った鳥がいた。アシにとまったところを観察。大きさはセキレイやモズより小さく、尾が長い。身体をたてるような感じでもとまり、全体的に茶色の強い体色で顔がフワッとした感じの白、目を通る黒い筋がたての方向に明瞭に見えた。小翼羽のあたりに黒い模様があり、くちばしは、小さく、短く、黄色。波形の飛行をした。以上のことからヒゲガラと判断した。ただし、頭が白く見えたことと、声が「金属的」とはいえない声だったことがフィールドガイドの記載とは違っていた。1分たらずで飛び去り、写真はうつせなかった（根本恵一）。  
（ヒゲガラはユーラシア大陸で繁殖し、日本の近くでは中国東北部やウスリーで繁殖する。日本には迷鳥として過去山形（1920年10月）と新潟（1969年11月）でそれぞれ1羽記録されている。）
- メジロ ◇8月8日午前6時、志木市本町でさえずる（藤原寛治）。
- イカル ◇7月4日、志木市本町でさえずる（藤原寛治）。
- シメ ◇5月29日、入間市の狭山丘陵で1羽（佐藤方博）。

## 表紙の写真

手もとに、埼玉県昭和62年度鳥獣行政概要がある。それによると、62年度中に県内で狩猟者によって「捕獲」されたキジバトは5万7,241羽。スズメ（6万4,518羽）について2番目に多い。過去10年間では合計80万

6,102羽「捕獲」されている。それに加えて、「有害鳥獣駆除」のため、62年度中に2,261羽が「駆除」されている。

こんな目をしているのに。

(写真と文・影野 仁)

## 【9月の見どころ】

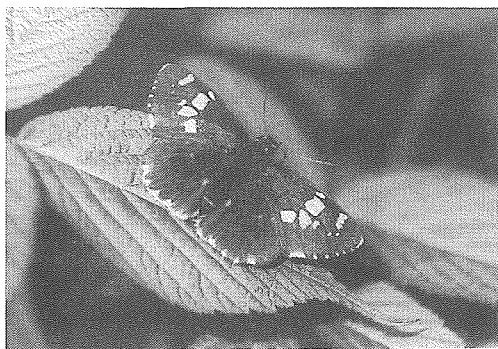
暑さももう一息。水辺では、カモの姿もチラホラ見える季節になりました。カモの渡ってくる順番は、コガモが一番早いようですが、あなたのフィールドではいかがですか。

この時期、本庄市の阪東大橋付近では、時として、ショウドウツバメの渡り途中の大規模な群れが見られます。北海道の土のガケで繁殖し、群れをつくって少しずつ南に渡って行きます。昨年の野鳥情報によると9月5日に3千羽以上の群れが乱舞し、なんとも壮観でしたと報告されています。これほどの群れは無理でも、小規模なものなら県内の各地で見られます。浦和市の秋ヶ瀬や三室でも毎年見られているようです。他のツバメやイワツバメに混じって飛んでいることもあります。上面が褐色で短い尾、胸の横帯が特徴です。

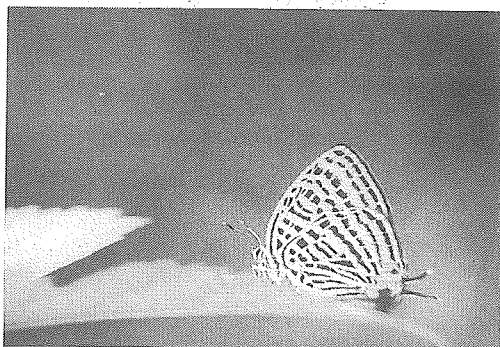
9月下旬になれば、サシバの渡りも見られます。寄居町の鐘撞堂山探鳥会は、天気さえ良ければ期待できますし、エゾビタキなどの目のクリッとしたかわいいヒタキ類の姿にも出会えるでしょう。

またこの時期は、幼鳥やら亜成鳥、換羽中のものなど、ひじょうにまぎらわしい姿をした鳥が多い季節です。

私も鳥を見始めの頃、カモの群れの中に、首をヒョコヒョコと前後に動かしながら泳ぐ薄茶色の見なれない鳥を見つけました。図鑑を見てもあてはまるものがありません。これは珍しい鳥に違いないと一人で決めていました。それが、ある時バンの子鳥だとわかった



ダイミョウセリ (登坂久雄)



ウラナミアカシジミ (登坂久雄)

時はガッカリしましたね。親といっしょにでもいてくれれば、すぐにわかるのですが、1羽でいられると全く別の鳥に見えるのですから困ったものです。

カイツブリの2番子もそろそろ親と別れる頃です。10年近く前の9月初旬のことです。私の故郷のフィールドで1羽の親鳥が、しま模様が残っているものの親とかわらないほどに成長している3羽の幼鳥に一生懸命に餌を与えていました。そこまでは、ふだんとかわらない光景に見えました。でも、見ているうちに何かいつもと違うことに気づきました。それは、親が浮き上がると子供達は鳴きながら近づいていきます。でも近くまで行くと親鳥の手前で潜ってしまいます。親鳥が浮き上がる、子供達が潜る。何度も何度も同じことがくり返されました。ジッと息をこらして望遠鏡を見つめていると、親鳥の口からはなたれるキラッと光る銀色のものが目に入りました。それは、これから、自らの力で生きていかなければならない子供達への親鳥の卒業試験みたいなものだったのでしょうか。親鳥のくちばしによって弱った魚が水にはなされた瞬間それを追う3羽の姿が一瞬目の前によぎったような気がしました。

2日後に行った時、親子はバラバラになっていました。私が見たこの親子の場合は、特殊な例だったのかもしれませんが、見なれた鳥でも、何回も通っていると思わぬことがあるかもしれません。

この秋、ドラマチックな出会いに期待しましょう。 (藤原寛治)



### 神奈川県・多摩川河口探鳥会

期日：9月10日（土）

集合：午前9時30分 京浜急行大師線小島新田駅前

交通：京浜急行線品川8:59発→京急川崎9:15着、大師線に乗り換え、9:17発→小島新田9:27着

解散：午後2時ごろ

担当：横山みどり、杉本秀樹、中島康夫、楠見邦博

見どころ：シギ・チドリ、秋のにぎわいの時。残暑厳しい時季ですが、東京湾の干潟は今がいちばん面白い時。この機会に海辺のシギ・チとなじみになりましょ。珍しいお客さんにも会えるかも。

### 熊谷市・大麻生探鳥会

期日：9月11日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:04発→大麻生9:12着 / 秩父鉄道寄居9:01発→大麻生9:19着

解散：午後1時ごろ

担当：鈴木忠雄、榎本秀和、北川慎一、林滋、岡安征也

見どころ：川面に秋風、鳥たちに秋のいろ。まだまだ暑い日もある河川敷。でも不思議。あれほど夏景色にぴったりだったコアジサシやササゴイに、思いがけなく秋のいろ。

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。

探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、（もしあれば）双眼鏡など。参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。受付は探鳥会当日です。特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発！

### 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：9月18日（日）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または午前9時 浦和市立郷土博物館前（北浦和駅の場合、その後バス利用）

解散：午後1時ごろ

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田実、手塚正義

見どころ：初秋の里に憩う旅鳥たち。渡りを急ぐ鳥たちがちょっと一息ついています。あの梢のエゾビタキは今年もいるかな。シギ類やホトトギスの仲間にも会えるかな。道端の野草にも秋色の濃くなって来た三室です。

### 寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：9月23日（祝）

集合：午前9時 寄居駅北口

交通：東武東上線川越8:00発→森林公園乗り継ぎ→寄居8:59着 / 秩父鉄道熊谷8:30発→寄居8:58着

解散：午後2時ごろ

担当：田村照治、新井清子、小淵健二、北川慎一、林滋、諏訪隆久、松井昭吾

見どころ：天高く渡るサシバの群れ。県内では、ちょうど今頃がサシバなどのタカの渡りのシーズンです。山頂のはるか上空を次々に通過して行く勇姿はまた格別。



### 浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：9月25日（日）  
集合：午前9時 浦和駅西口バスロータリー  
（その後現地までバス利用）  
解散：午後1時ごろ  
後援：埼玉県  
担当：海老原美夫、福井恒人、草間和子、森本國夫

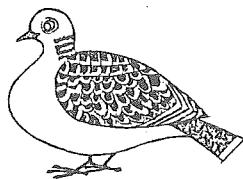
見どころ：渡りの途中のシギ・チドリの群れ。  
広々とした耕地のそこそこに翼を休めるシギやチドリの仲間。冬羽の彼らの識別に挑戦してみませんか。よく捜せば思いがけない珍客が。

### 本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：9月25日（日）  
集合：午前9時 本庄駅北口  
（その後現地までバス利用）  
交通：高崎線大宮7:44発 → 熊谷8:26発 → 本庄8:49着  
解散：午後1時ごろ  
担当：北川慎一、榎本秀和、林滋、萩原正二  
見どころ：どこかもの悲し気なシギの声。響きわたるシギの声を聴きながら、利根川の河原を歩きましょう。この数年、話題に事欠かない阪東大橋。今日もビッグな出会いが待っている、かな。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月1日（土） 午後1時～3時ごろ  
会場：浦和市立コミュニティセンター2階第2講座室（浦和駅西口から県庁通り西進、中山道を左折し約600m右側）  
案内：一度参加すると病み付きになるのが袋づめの会。楽しいおしゃべりと耳寄りな情報。あなたもどうぞ。



（榎本秀和）

### 野鳥写真クラブ定例会

とき：10月1日（土） 午後3時ごろ～5時  
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ  
案内：袋づめをさっさと済ませたら、今度は写真クラブの始まり。腕に覚えのある面々が今月も懲りずにスライドをお見せ致します。

### タカの渡り調査

いよいよサシバなどのタカ類が南の国へ帰って行く季節となりました。日本野鳥の会では例年タカ類の渡り調査を行ない、当支部も協力して来たところですが、今年は10月2日（日）に次の要領で実施します。

調査地点1 <sup>かわつきどう</sup>鐘撞堂山（寄居町）  
集合：午前7時30分 秩父鉄道寄居駅北口  
（直接行かれる方は鐘撞堂山山頂）  
担当：小淵健二  
調査地点2 物見山（東松山市・鳩山町）  
集合：午前7時30分 東武東上線高坂駅西口（直接行かれる方は物見山展望台）  
担当：榎本秀和  
調査地点3 <sup>たかかし</sup>高指山（日高町）  
集合：午前7時 高指山NTTマイクロウエーブ中継局前  
交通：西武池袋線高麗駅より高麗本郷、駒高を経て徒歩4km。（5万分の1地形図「川越」参照）  
担当：小荷田行男

いずれの調査地点も解散は昼過ぎになる予定。雨天決行です。調査ですので参加費は要りません。いつもの支度で御気軽にどうぞ。ベテランの方も初めての方も、秋空をのんびり眺めて和気あいあい、タカの渡りでも観察しませんか。

10月9日（日） 渡良瀬遊水地探鳥会  
9:10 東武日光線柳生駅前集合  
10月9日（日） 熊谷市・大麻生探鳥会  
9:30 秩父鉄道大麻生駅前集合  
10月16日（日） 浦和市・三室地区探鳥会

# 行事報告

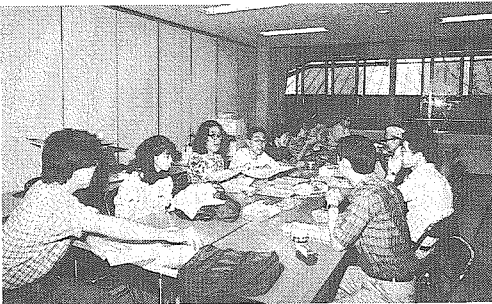
6月19日(日) 浦和市 三室地区

人 66人 天気 晴 鳥 カルガモ コジュケイ キジ コチドリ クサシギ イソシギ シラコバト キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 記念すべき第50回目の三室地区探鳥会。本部より臼井俊二氏を迎えて探鳥と鳥合わせの指導をお願いした。記念して配布された楠見リーダー手作りの資料によると、延べ参加者2717人、出現鳥種84種を数え、参加しやすくて鳥もよく見られる定例探鳥会として定着している。

6月25日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 青沼俊雄、石川直子、岩波勇一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、金子真理、草間和子、小林恒雄、小林芳江、諸徳寺四郎、田中良平、中里隆介、中静アヤ、藤野富代、吉田二三子、渡辺敦、渡辺孝章 (18人)

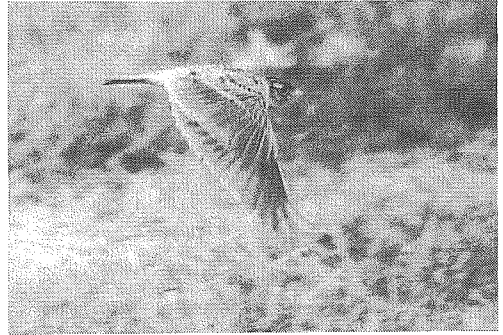
御苦労様でした。早々と時間前から来て待っていてくれる常連さんに加えて、まったく初めての人が思いがけなく来てくれるのがうれしいですね。



ほっと一息ティータイム (中里隆介)

6月25日(土) 野鳥写真クラブ定例会

集まった人 18人 作品発表した人 5人



ヒバリ (田中良平)

7月3日(日) 三芳町 多福寺

人 52人 天気 曇 鳥 コジュケイ キジ キジバト コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (16種) 東京方面からを含めて大勢の参加者があった。探鳥会案内に書いてはいなかったが、皆さんサンコウチョウを期待されたのだろう。残念ながら、今回は鳴き声も聞けず、代わりに雑木林についての勉強会となった。来年は探鳥会をやるのなら絶対見ていただけるようにしたいとの担当リーダーの声もあったので、これに懲りずに来年もどうぞ。

7月9日(土) 坂戸市 高麗川

人 30人 天気 曇時々晴 鳥 カイツブリ ゴイサギ アマサギ コサギ カルガモ ハイタカ キジ コチドリ イソシギ キジバト カッコウ ヤマセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ

スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス  
 ハシブトガラス (29種) 暑い中での探鳥会。  
 鳥の方もさっぱりでなんとなくダレ気味にな  
 っていたところを盛り上げてくれたのは、ハ  
 イタカ (8の成鳥) だった。木に止まってい  
 る所から、飛ぶ所まで、全員が見られた。ど  
 うしたことか高麗川名物のカワセミは現われ  
 なかったが、ヤマセミはチラリ。

### 7月10日 (日) 熊谷市 大麻生

人 39人 天気 曇時々小雨 鳥 カイツブリ オオヨシゴイ ササゴイ アマサギ  
 ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コ  
 ジュケイ バン コチドリ イカルチドリ  
 イソシギ コアジサシ キジバト カッコウ  
 カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ キ  
 セキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ  
 モズ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カ  
 ワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラ  
 ス ハシブトガラス (32種) 雨の中、非常に  
 蒸暑い日にもかかわらず、懲りない人々が今  
 月も大麻生に集まった。サギの仲間たちが多  
 く観察され、珍鳥オオヨシゴイまでが確認さ  
 れた。そのうえバンの交尾まで見てしまった。  
 またカッコウとオオヨシキリのさえずりを同  
 時に聞き自然界の一片を見ることができた。

### 7月17日 (日) 浦和市 三室地区

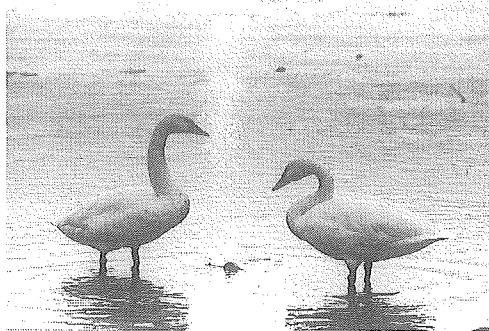
人 18人 天気 雨 鳥 カイツブリ  
 コサギ カルガモ コジュケイ バン コチ  
 ドリ イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ  
 イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ  
 オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒ  
 ワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ  
 ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) こ  
 こでは初記録のバンが現われた。全員くちば  
 しの付け根の赤い部分をしっかり観察。雨の  
 ため途中で打ち切り、スライド会で楽しんだ。

### 7月24日 (日) 浦和市 室内スライド大会

集まった人 21人 作品発表した人 6人  
 発表された作品は約400点。

夕陽をバックに美しいコハクチョウ、たた  
 ずむイソシギ、ドアップでせまるハンビロガ

モ、クロジョウビタキやキガシラセキレイな  
 どの珍鳥たち、たくさんのスマイレやチョウ、  
 色とりどりの熱帯魚の乱舞、探鳥会の人々の  
 表情……たっぷり写真とおしゃべりを楽しんで  
 外に出ると、浦和の街にはぎやかにお祭り。  
 笛や太鼓の音、神輿をかつぐ人たちの掛け声、  
 綿飴、夜店、はなやかな日。



コハクチョウ (町田好一郎)

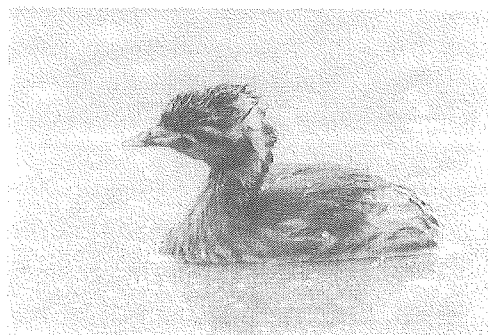
### 7月30日 (土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 石川直子、岩波勇一、  
 榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、遠藤薫、  
 金井祐二、神場真文、諸徳寺四郎、諏訪隆久、  
 藤野富代、松井昭子、松井昭吾、横山みどり、  
 吉田二三子 (15人) おつかれさま。

### 7月30日 (土) 野鳥写真クラブ定例会

なにしろ1週間前にスライド大会を開いた  
 ばかり。作品発表最少記録。それでも、足の  
 けがで入院していた病院で営巣していたキジ  
 バトの写真を持って、久しぶりに現われた金  
 井祐二さんら3人が作品発表。

来年は日程を少し考え直さなければ。



生まれた! 白幡沼のカイツブリ (海老原美夫)

## 連絡帳



### 秋のシギ・チドリ類一斉調査

9月15日(祝)に研究部の担当で今年も秋のシギ・チドリ類調査を実施します。

昨年秋は約20名が参加して実施。その結果は本誌1988年2月号(45号)でお知らせしたとおりで、1番多かったのは秋ヶ瀬のムナグロ179羽、次が阪東大橋のシロチドリ45羽といった具合です。

どなたでも参加できます。探鳥会とはひと味違った鳥の見方を、あなたも体験してみませんか。事務局までご連絡ください。

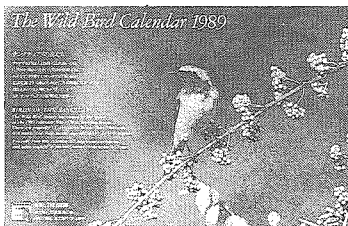
### 事業部長に就任

前任者が退任以来空席であった事業部長に浦和市の福井恒人幹事=写真=が就任しました。ごぞんじ「恐怖・ダジャレ男のフクイさん」ですが、ダジャレは売りません。支部エンブレムや本部のカレンダー=下=など、まじめにいろいろ売ります。



### 1989年カレンダー

全国12カ所のサンクチュアリを特集。今年から会員割引価格900円。10月発



題字『しらこぼと』=山下静一(財)日本野鳥の会会長、イラスト見出し=鷹尾正済(p5, 6, 12, 表紙デザインも)・鈴木加代子(p8)・渡辺周司(p10)

売予定。楽しみにお待ちください。

### ありがとうございます

次の方々からご寄付をいただきました。  
海老原教子・海老原美夫・福井恒人の3名で10,000円、加藤均 4,000円、原口郁子 1,750円。(50音順、敬称略)

### 会員数は

8月20日現在 908人です。

### 活動報告

7月11日 日通航空マレーシアの旅の有料広告折り込み依頼に来局。打ち合わせ。

7月17日 事業部会議(部長の選任、販売物配置の打合わせなど)。編集部会議(7月号の反省、8・9月号の打合わせなど)。普及部会議(探鳥会の反省、今後の行事予定など)。役員会議(司会・諏訪隆久、各部の報告、有料広告折り込みの取り扱い、リーダー研修会、関東ブロック会議、その他)。

7月25日 『しらこぼと』8月号校正(大武昭雄、西城戸司、森本國夫)。27日再校(森本)。

7月29日 NTT野鳥の声テレフォンサービスのリーフレット持参。



誰もが必ず目を通すページ、「行事あんない」を今月号から担当することとなった榎本です。

「行事あんない」の現在の形は、前任者である鈴木高士さんの築いたものですが、取り敢えずは今までの路線を継承しつつ、将来的に新しい形に持って行きたいと考えております。

前任者同様よろしく申し上げます。

(榎本秀和)

『しらこぼと』 1988年9月号(第52号)

定価 100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦

編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部

☎ 0488 (32) 4062

〒 336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)